

# 平成29年度 夢の樹みどり 事業実績報告書

## 1 総括

28年度に計画した通所事業所の機能分化は就労継続支援事業B型の夢の樹みどりを生活介護に変更し、同じく就労継続支援B型の小平第二みどり作業所の利用者と合わせて所属を再編成するというものであった。29年4月、移転により新しい活動場所を確保し、夢の樹みどりは生活介護事業所として、利用者、職員とも新たな顔ぶれでスタートした。様々なことが大きく変わり、環境の変化が苦手な利用者の方も多いため、まずは早く新しい環境になれ、スムーズに新生活に移行するということを最優先に取り組んだ。同時に、事業を機能分化した意味、つまり利用者の生活の更なる充実に向けて取り組む必要があった。

年度当初は多少の混乱があったが、1か月を過ぎる頃には、利用者、職員とも環境に慣れ、事業再編は概ね順調なスタートを切ったといえた。再編前の事業所での活動を継続する形で一人ひとりの活動を設定したこともあり、新しい活動にあまり戸惑いが無かったことも一つの要因と考えるが、利用者一人ひとりがこれまでの経験を通じて生活の変化に柔軟に対応する力をつけていたことが最大の要因だと感じている。

一方で、機能分化による効果は十分に出せていない。生活介護事業に変更した最大のメリットは職員配置の充実である。その点においては再編前の両事業所と比較して職員配置は確かに良くなったが、そのメリットを生かすために必要な、利用者一人ひとりの支援方針の検討や、それに伴う活動の開発、チーム支援の充実など必要な取り組みが殆ど行えないまま上半期を過ぎる結果となった。新しい環境に慣れたところで、事業所の発展的取組みが停止し、これまでの活動をただ踏襲するという形骸化に近い事態が起きたと反省している。事業所にその具体的な知識が無かったことと機能分化の目的意識の欠如が招いた結果と考えている。

下半期、事業を再編したメリットを最大限利用者に還元するという目的を再確認し、事業所の支援能力の向上に向けて組織改革に取り組んだ。施設長と職員が事業の充実のために活発に意見を出し合える環境を作ることから始め、まだ試行錯誤の中にあるが、少しずつ活動内容や支援の充実に向けて動き出していると感じている。

## 2 事業概要

1) 施設名	夢の樹みどり		
2) 事業種別	生活介護		
3) 所在地	東京都小平市小川町1-744-1		
4) 運営主体	社会福祉法人 未来		
5) 利用定員	30名		
6) 利用現員	31名（平成30年3月31日現在）		
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日		
8) 事業開始年月日	平成29年4月1日		
9) 職員	14名（平成30年3月31日現在）		
	管理者	1名	
	サービス管理責任者	1名	（常勤換算1.0）
	生活支援員	11名	（常勤換算10.0）
	看護師	2名	（常勤換算1.0）
	嘱託医	1名	

- ## 3 基本理念
- 一人ひとりの自己実現の支援
  - 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
  - 安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- ① 日中活動の保証
- ② 豊かな生活の支援

- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 安心できる将来への支援

## 5 実施事業（活動内容）

### 1) 就労支援事業

- ① 資源回収
- ② 公園清掃
- ③ 緑化推進事業
- ④ ポスティング
- ⑤ 書類封筒作業
- ⑥ 紙袋底板入れ
- ⑦ 空き缶つぶし
- ⑧ その他軽作業

### 2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（月2回実施）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 運動プログラム（週3日～5日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（週3日実施）

### 3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 障がい者運動会
- 6月 ボウリング大会
- 7月 江戸東京たてもの園見学
- 8月 川遊び
- 9月 南極・北極科学館見学
- 10月 旅行（千葉県勝浦方面）
- 11月 所沢航空発祥記念館見学
- 12月 忘年会
- 1月 新成人を祝う会
- 2月 防災訓練
- 3月 狭山公園散策

## 6 日 課

開所・送迎	8：30～9：30
朝礼	9：00～9：30
活動	9：30～12：00
（作業・運動PG）	
昼休み	12：00～13：00
昼礼	13：00～13：10
活動	13：10～15：30
（作業・運動PG）	
実績記入・お茶	15：30～15：50
終礼	15：50～16：00
送迎・清掃	16：00～17：10
ミーティング	17：10～17：30

## 7 重点課題・目標に対する評価

### 1) 作業活動の充実

利用者個々の状況に合わせて作業を提供するほか、小平第二みどり作業所との作業交流や作業の開拓を行い、利用者の生産活動への参加を促進する。また、働く力の伸長を目指し、一人ひとりにあっ

た丁寧な作業指導を行う。

#### 【成果と課題】

##### ① 利用者個々の状況に合わせた作業提供

4月から11月にかけては、利用者32名の内、日々20名程度が資源回収や公園清掃など車に乗って外出する作業を中心に取組み、日々10名程度が室内作業の紙袋の底板入れを中心に取組んだ。両作業ともほぼ同じメンバーでの固定となり、違う作業への参加という発想は生まれなかった。二つの選択肢においては各利用者の希望や状況に沿った作業配分と考えられたが、一人ひとりに丁寧に焦点を当てて、作業を考えるという視点は欠けていた。12月以降作業種を増やしたり、これまで外作業中心であった利用者に室内作業を経験してもらうなど、実験的に取組み、可能性の発見や作業の幅を広げることにつながった。

##### ② 生産活動への参加の促進。

小平第二みどり作業所から夢の樹みどりへ所属が変更となった利用者のうち、これまで行っていたクッキー製造作業の継続を希望した4名については、小平第二みどり作業所への送迎を行い、クッキー製造作業が続けられるようにした。内1名は年間を通して週2日の頻度で参加したが、残り内3名については、年度当初の週1日から6月以降は月1～2日の頻度となり、徐々に新しい環境での作業に慣れた様子が伺えた。

新規作業の開拓では12月より書類封筒作成作業、1月よりポスティング作業を新たに開始した。書類封筒作成作業はコンスタントに受注でき、室内作業の種類が増え、参加人数も増えることで、屋外作業に偏りがちであった作業配分のバランスがやや改善した。また、ポスティング作業は内容がわかりやすく多くの利用者が参加しやすいうえ、資源回収が車での移動が多いのに比べ、歩くことが多く、達成感が得やすいという利点がある。受注は月に数回であるが、利用者から人気のある作業となっている。

室内作業では、概ね3名の利用者に職員1名の配置が行え、再編前の事業所と比較すると職員配置が充実したといえる。室内作業では参加する利用者数も少なかったことから利用者一人ひとりへの声掛けも多くなり、利用者が継続して作業に取り組むことが多くなった。(職員の目が届かず、作業をしないで過ごす時間や待ち時間が減少した。)屋外作業では室内作業に比べ、職員の配置は少なく、10月以前は車両3台の内、2名の職員が配置できるのは1台であり(1台につき利用者5～7名)、室内作業の2分の1の職員配置となった。11月以降は、職員2名の配置が行える車両が2台と増え、声かけや誘導がしやすくなり、作業への参加機会が少しずつ増えてきている。

##### ③ 働く力の伸長を目指した作業指導

②の作業参加の促進が結果的に働く力の伸長につながることはありうるが、上半期は事業所としてこの目標を共有し、チームで取り組むという姿勢は不十分であった。(利用者一人ひとりの作業の状況、目標や課題、取組みや方針の決定とその評価を共有し、計画的に支援を行うという取組みは不十分であった。)下半期は充実した職員態勢を活かせるよう、資源回収の車両では全員作業に参加すること、室内作業では作業の量をわかりやすく提示し、目標意識や達成感を持つ為の支援を行うなどをミーティングで取りきめ、支援にあたってきた。

## 2) 個々の特性に合った活動の実施

健康保持や気持ちの安定、生活意欲の向上などを目的として、個々の利用者の生活の充実に必要なプログラムの提供を行う。

#### 【成果と課題】

事業再編前から実施していた運動プログラム(ウォーキング・プール)については、週3回のペースで8名が継続する形で実施したほか、年度途中より新たに1名が参加した。運動プログラムの主な目的は体重増加防止とそれによる健康保持であるが、参加者9名のうち2名は体重が減少し、3名は現状維持、4名は体重が増加となった。上半期はこの運動プログラム以外に新たなプログラムを実施していない。「はじめに」で触れたように、そもそもこの重点課題が組織で共有されてなく、日常の活動において意識されていなかったという重大な問題点があった。

下半期、このプログラムの充実を図り、意欲的に参加できるよう、2週間に1回「みんなのおやつを買う」という目的をウォーキングの活動に加えた。これにより、参加者の活動意欲に向上がみられたほか、新たに6名の参加があった。年度を通して7名の参加者が増えたことになる。体を動かす機

会が少なくなりがちな利用者が多い中、運動プログラムへの参加者が増えたことは意味があったと考える。

### 3) 職員の情報共有と支援能力の向上

利用者個々のニーズや支援方法、留意点について職員全体で確認を行い、一人ひとりに合った支援が行えるよう職員間の情報共有を徹底するほか、一人ひとりの職員の支援能力の向上を図る。

#### 【成果と課題】

職員の情報共有、支援能力の向上という目標課題達成の前提として事業所としてその意義を理解し、具体的な手法を持っていなければならない。最大の問題点はこの点が不確かで利用者支援の方針そのものが明確に存在していなかったことにある。これまで再三触れてきたように、これまでの活動の継続による新生活への移行がある程度完了した時点で思考が停止し、利用者一人ひとりの支援方針を丁寧に検証していくという視点（生活の充実や能力の伸長など）を組織として持たなかったことが大きな反省となった。事業計画に沿って行われるべき事業が計画とは乖離したところがあったといわざるを得ない。上半期の総括により、法人より指摘があり、下半期その改善に取り組んだ。

以下に指摘事項と改善へ向けた取り組みの実施状況を記載する。

#### <指摘事項>

- (1) 利用者一人ひとりの活動や支援方法が形骸化し、組織的に検証されていない。
- (2) 利用者の支援実態が関わった職員のみで完結しており、組織的に共有されていない。
- (3) (2)の結果一人ひとりの職員が自己の価値観や判断で利用者の支援にあたるという結果になっており、支援計画や支援方針が共有されず、チーム支援が機能していない。
- (4) ケース記録、ミーティング記録など支援の検証や評価、また情報共有に活用されるべき記録が形だけのものとなっており、必要な内容が記録されていない。
- (5) (1)～(4)の事項について、施設長が問題意識を持たず、記録にも関与を行っていない。また、適切な情報共有や記録の手法を持っていない。

#### <改善へ向けた取り組みの実施状況>

下半期、施設長が現場職員の中から指導役として4名を選抜し、現状の問題点と改善の必要性の共通認識を行った上で、活動内容や個々の利用者の支援方法等について、意見交換を行うことから開始した。この会議を9月以降週1回のペースで実施し、決定した事項を支援現場において各職員に伝達、指導していく他、ミーティングで全職員に周知する方法をとった。4名の職員からは活発な意見が出され、事業改善に向けて、ばらばらであった事業所の方向性がまとまりつつあると感じている。

また、施設長が他の施設にて実地研修を行い、職員の指導方法、職員間の情報共有の方法や利用者の支援方法について直に学び、事業改善に役立てた。

これらの取り組みから下半期以下の点に改善がみられるようになってきた。

- (1) 各職員が支援を担当した利用者のその日の状況や支援内容等ミーティングで報告し、またケース記録やミーティング記録を丁寧に記載することで、利用者の状況について職員間の情報共有が進んだ。
- (2) ケース記録の書式を変更し、支援計画に沿った記載を丁寧にするすることで、職員一人ひとりが支援計画を意識し、利用者の行動観察や支援の評価を行うようになった。これにより、支援方針についての意見交換も活発になり、支援方針の見直しや統一化が進んだ。  
(一例：他害や物損などにより、これまで個別の空間での対応が多かった利用者の支援方針の見直しから始め、本人の状況を踏まえつつ集団行動に参加する場面を増やしていくことで、朝礼、音楽活動などへの参加など、活動の幅が広がった。)
- (3) 多様な利用者のニーズに応えるため、新規作業や活動の開発、考案が行われた。

## 8 その他の成果と課題

- 1) 送迎サービス業務に占める時間的また人力的な割合が大きく、特に遠方のコースの場合、活動開始時間までに送迎車の到着が間に合わないことがあった。この状況を改善する為、

下半期に以下の取り組みを行った。

- ・NPO法人春望と協力し、送迎車両を共同で用意した上で、同じ地域（主に清瀬方面）の利用者の送迎を共同で行う取り組みを2月から開始した。これにより、送迎時間の短縮と支援現場における職員数の確保が図られた。

## 9 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前9時～午後4時  
(3) 年間延開所日数 244日間 (前年度 242日)  
(4) 平均活動時間 7時間

## 10 利用状況

- 1) 利用者延人員 6,067人 (前年度 10,162人)
- 2) 1日平均利用人員 24.9人 (前年度 42.0人)
- 3) 体験実習者延人員 54人 (前年度 93人)
- 4) 1日平均実習人員 0.2人 (前年度 0.4人)
- 5) 実習者実人員 9人 (前年度 5人)

## 11 利用者状況 (平成30年3月31日現在)

### 1) 年齢

- |            |     |
|------------|-----|
| 20歳未満      | 2名  |
| 20歳以上30歳未満 | 17名 |
| 30歳以上40歳未満 | 9名  |
| 40歳以上50歳未満 | 1名  |
| 50歳以上60歳未満 | 0名  |
| 60歳以上70歳未満 | 2名  |
| 70歳以上      | 0名  |

### 2) 障害の状況

- |           |                           |
|-----------|---------------------------|
| 愛の手帳2度    | 25名 (内身障手帳所持1名)           |
| 愛の手帳3度    | 2名                        |
| 愛の手帳4度    | 3名 (内身障手帳所持1名、精神保健手帳所持1名) |
| 身体障害者手帳1級 | 3名 (内愛の手帳所持2名)            |
| 精神保健手帳2級  | 1名 (内愛の手帳所持1名)            |

### 障害支援区分

平均障害支援区分 4.8

### 3) 通所手段

- |       |                              |
|-------|------------------------------|
| 送迎車利用 | 30名 (内1名家族送迎、内2名徒歩等、家族送迎と併用) |
| 徒歩等   | 3名 (内2名送迎車、家族送迎と併用)          |
| 家族送迎  | 3名 (内1名送迎車、内2名送迎車、徒歩等と併用)    |

### 4) 居住状況

管内居住 28名 管外居住 3名

### 5) 性別

男性 23名 女性 8名

## 1.2 利用者工賃

平均工賃 1人 月額 : 10,394円 (前年度 14,774円)  
日給 : 632円 (前年度 852円)

## 1.3 夕方生活支援実施状況

- 1) 実施日数 114日 (前年度 152日)
- 2) 利用者 (平成30年3月31日現在)
  - (1) 利用者数 24人 (前年度 35名)
  - (2) 利用者延人数 563人 (前年度 774名)
- 3) 支援者 (平成30年3月31日現在)
  - (1) 職員 14人
  - (2) 職員延人数 350人
- 4) 内容
  - (1) ボウリング 19回
  - (2) カラオケ 21回
  - (3) 入浴 14回
  - (4) プール 9回
  - (5) 散歩 5回
  - (6) 料理 7回
  - (7) パソコン 18回
  - (8) ゲームセンター 18回
  - (9) ドライブ 3回
  - (10) スイカ割り 1回
  - (11) 初詣 1回

## 1.4 生活支援PG実施状況

- 1) 実施日数
  - (1) PG実施日数 210日 (前年度 134日)
  - (2) 週平均実施日数 4.0日 (前年度 2.6日)
- 2) 利用者 (平成30年3月31日現在)
  - (1) 利用者数 15人 (前年度 8名)
  - (2) 利用者延人数 731人 (前年度 441名)
- 3) 支援者 (平成30年3月31日現在)
  - (1) 職員 8人
  - (2) アルバイト 9人
  - (3) 職員延人数 339人
  - (4) アルバイト延人数 402人
- 4) 内容
  - (1) ウォーキング 509回
  - (2) プール 222回

## 1.5 環境の整備

定期的に施設内外の清掃を実施し、年間通して清潔な環境を保つことができた。

## 1.6 防災

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。

## 1.7 その他

福祉サービス第三者評価を受診した。